

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「生徒一人ひとりが生き生きとする学校づくりをめざす！」  
「提案型教員集団づくりに努める！」  
「生徒の現状をさらに深く把握し、前年度の成果を踏まえ、普通科改革校としての地歩を固める！」

- 1 これからの社会を生き抜く、自尊感情や社会性豊かな幹の太い生徒を育成するとともに、充実した質の高い授業を行う。
- 2 特色づくりに努め、普通科改革校としての地歩を固める。
- 3 保護者・地域と連携を密にとり、信頼され、求められる学校教育活動を展開するとともに、高校3年間を見通したキャリア教育体制を確立する。

## 2 中期的目標

## 1 幹の太い生徒を育成し、充実した質の高い授業を行う。

幹＝人間力（あいさつ、辛抱、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力、人間関係力、学力、規範意識、成功体験、自尊感情、自立心）

- (1) FCK、自治会、生活指導部、学年、人権教育研究委員会が連携し、すべての教育活動を通して、幹の太い生徒の育成に努める。
  - ア 人間力の育成： 学校内外でのさまざまな教育活動を通して、成功体験を積み重ね、規範意識の向上・支えあう集団づくり・自尊感情の高揚を図る。
  - イ 生活規律の確立： あいさつの励行、遅刻・欠席の減少、身なりを正す、毛染め・ピアスの一掃など、生活規律の確立に取り組む。
  - ウ 人権教育の推進： いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、さらに安心・安全な学校づくりに努める。
- (2) 「わかる授業」から「充実した質の高い授業」をめざし、授業公開・授業評価を通して、授業改善に取り組む。
  - ア 授業規律の確立： ベル着・机上整理・授業集中を徹底させる。
  - イ 習熟度別少人数授業の拡充： 英語だけでなく、数学でも行い、一人ひとりの生徒に対しきめ細かな授業を展開する。
  - ウ 授業公開・研究協議： 教務部、教科が互いに連携し、教員授業見学会と研究協議を推進する。また、授業を保護者・地域に公開する。
  - エ 授業満足度： 各種授業アンケートを実施する。生徒の声をしっかりと把握し、適宜教員にフィードバックし、生徒の授業満足度の向上に努める。
- (3) 学習時間を確保する。週2回勉強会の時間、土曜学習室・講習、勉強合宿、平日講習を充実させ、国公立大15人、関西大学80人の合格をめざす。

## 2 特色づくりに努め、普通科改革校としての地歩を固める。

- (1) e（エスペランサ＝希望、education＝教育）コース： 体験学習・高大連携・発展教科の充実を図り、eコース連絡会で定期的に検証する。
- (2) 特別講演会： 国際的に活躍をしている人を定期的に招いて、特別講演会を実施し、生徒が自分の将来を考える動機付けを行う。
- (3) 国際交流・国際理解教育： 交換留学や海外視察団の受け入れ、海外語学研修を積極的にを行い、異文化理解と国際感覚を高める。
- (4) 資格取得： 実用英語検定の全員受験をめざす。
- (5) 自由選択科目： 生徒に必要な教科・科目について、教務部とカリキュラム委員会が連携して、その拡充を図る。
- (6) 家庭学習時間の増加： 週末課題を出し、学習時間の増加を図る。
- (7) 防災： 南海トラフ大地震を想定した避難訓練マニュアル・大地震発生時アクションカード・生徒引き渡し概要を充実させる。また、安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。
- (8) 環境教育・国際貢献： エコキャップ運動をさらに拡充し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む生徒を育成する。
- (9) 地域連携・ボランティア活動： 地域の人材・施設を積極的に活用し、保・幼・小・中・高・専・大連携や企業連携を活発に行う。

ア 生物医療コースの生徒の富田林病院での実習	イ 大阪大谷大学1日授業体験（2年生全員）
ウ eコース生徒の川西幼稚園での保育体験	エ 小学生対象の「河南高校わくわく理科教室」
オ 運動系・文科系クラブによる中学生との合同練習	カ 和太鼓部・吹奏楽部の公演活動
キ 自治会生徒による赤い羽根募金や災害地への募金活動	など

## 3 生徒と保護者の思いを的確に把握し理解を深めるとともに、河南高校のキャリア教育体制を確立する。

- (1) 面談の充実： 全生徒・保護者との面談を拡充するとともに、家庭訪問を積極的に行う。
- (2) 課題を抱える生徒の支援： 定例の支援委員会を充実させるとともに、学年との連携をいっそう図り、生徒情報の共有化と組織的な支援を促進する。
- (3) 中学校訪問・中高連絡会： 中学校訪問・中高連絡会を新たに開催するとともに、教職員研修を通して「生徒・保護者と向き合う」教職員集団づくりに努める。
- (4) キャリア教育体制の確立： 進路・学年・キャリアカウンセラーが連携して本校独自の「キャリア教育ワーク集」を作成し、高校3年間を見通した系統的なキャリア教育指導体制を確立する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>■学校教育自己診断の分析            (数値は「あてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的な意見の合計比率)            生徒結果は、25項目すべてで、保護者結果も、20項目すべてで、昨年以上となった。            生徒アンケートでは、「部活動に積極的に参加している」(92%)、「行事は楽しく行えるよう工夫されている」(85%)と、クラブ活動・学校行事について肯定的な意見が多い。また、多くの生徒が「学校へ行くのが楽しい」(83%)と感じており、「将来の進路や生き方について考える機会がある」(82%)、「学校生活に対する満足度」(82%)も高い数値を示している。            保護者のアンケートでも、「子供は学校行事に積極的に取り組んでいる」(93%)、「学校での出来事・友達・進路などについて、子どもと話す機会を持っている」(91%)、「学校の雰囲気良く、子供が生きいきとしている」(90%)、「子供は高校生活全般に満足している」(90%)、「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」(89%)と、保護者の満足度も非常に高い。</p> <p>【学習指導等】 (今年度の数値 ← 昨年度)            「分かりやすい、充実した授業」をめざし授業力向上に取り組んだ。その結果、「先生の教え方に様々な工夫がされている」(67%←60%)、「授業の進度は適切である」(65%←60%)「全体的に授業は分かりやすい」(58%←57%)という肯定回答で、徐々に改善されつつある。            11月、2週間の公開授業期間中に各教科から1名代表を出して授業を行った。事後に各教科会で研究協議を行い、その結果を教務部が集約した。また、感想記入票を見学者が授業者に個々に手渡すことにより、当該教員の授業力の向上に役立つとともに、この成果が教員全体に好影響を与えた。            定期考査の成績不振者を対象にサポート講習(欠点保有者講習)を実施して2年目となった。この結果、「授業以外の講習や補習が充実している」(65%←62%)となった。該当生徒の保護者にはサポート講習を通知し、協力を仰いだ。また、部顧問にもクラブ別成績不振者一覧を渡し、指導を入れてもらった。実施2年めで、組織的な生徒サポート体制が定着した。            「成績面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」(65%←62%)であった。            各項目、全体に少しずつ上がってはいるものの、さらに改善していかなければならない。</p> <p>【進路指導等】            進路指導部と各学年が連携し、外部講師を招き、生徒・保護者対象の講演会を数多く開催した。また、進路情報も同時に積極的に提供した。            生徒アンケートでは、「将来の進路や生き方について考える機会がある」(82%←80%)と高く、「学校は進路情報をよく知らせてくれる」は77%と、昨年同様の評価であった。            保護者は、「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(77%←76%)となった。</p> <p>【生活指導】            生活規律の確立をめざし、&lt;規律なくして学力向上なし&gt;を標語に掲げ、遅刻縮減に力を入れた。            年2回の遅刻防止旬間や生活指導部・担任の指導強化により、4月から12月までの全生徒の遅刻件数は昨年度の80%となり、2割減少した。当初の目標が達成できると思われる。            また、あいさつ運動も生徒自治会役員が中心となって積極的に取り組んだ。「生徒指導面で学校の方針に共感できる」では、保護者(80%←73%)、生徒(60%←59%)が肯定回答している。</p> <p>【人権教育・防犯防災】            これまでの肯定回答の低迷を回復させるべく、支え合う生徒集団づくり、人権集会や学年集会の充実に努めた。その結果、「人権の大切さについて学ぶ機会がある」は、全生徒の肯定回答が(80%←61%)となり、大幅に上昇した。また、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(73%←62%)も大きく上昇した。「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の保護者の肯定回答が(83%←72%)、生徒が(65%←61%)となり、それぞれ取り組みの成果が表れた。</p>	<p>■学校協議会            第1回(平成26年5月22日)            ① 入学者の状況等 ② 卒業生の進路状況等            ③ 自治会の活動状況 ④ 校長からの資料説明</p> <p>[ 質疑応答・協議 ]            ・当事者は生徒。河南高校に「生徒発学びの場」が生まれることを期待する。            ・「クラブがしたい」「行事が出来る」「通学時間もかからない」ということで、パワーのある生徒が河南高校にきている。私学とは違った活動を提供してくれることを求めている。この生徒達に目標を持たせ、「知徳体」で生徒を引っ張ってもらえれば、生徒はしっかりついてくると思う。            ・河南高校には生徒同士で支え合う環境がある。これを大切にしながら、日頃手応えを感じるものや知的好奇心に結びつくものを生徒に掴んでいって欲しい。そうすればすごい力になる。</p> <p>第2回(平成26年10月23日)            ① 授業アンケートについて            ② スタディサポート、高校生活と健康意識調査について            ③ 学校説明会等について ④ 勉強合宿について            ⑤ 自治会生徒との懇談 ⑥ その他</p> <p>[ 質疑応答・協議 ]            ・授業アンケートで、生徒の結果と教員との比較でズレが生じている場合がある。このズレの原因に改善のヒントがある。教員どうしが協議を行うことも大切である。            ・先生から生徒へアクションペーパーを使い、生徒のアンケート結果に対して先生より生徒に説明をしている。            ・スタディサポートと意識調査で、家庭学習が少ないのは極めて憂う。一方で大学進学意識が高い。            ・家庭での団らんが少ない。親と話をしないで、携帯でやり取りをしている。団らんを多くすることで勉強の意欲が高まる。PTAを巻き込んだ家庭教育への支援が必要となってきている。            ・バズ学習で授業以外の知的空間をどれだけうまく取れるか。行うことはとても良い。            ・中学では3年間朝学習で週に1回、新聞に接する時間を作っている。            ・ボランティアをしようとする意識が高い。さらに、ここに河南ありといえるものを作るとよい。            ・生徒が挨拶するために一歩前に入るような仕掛けを作ればどうか。</p> <p>第3回(平成27年1月29日)            ① 授業アンケート(第2回) ② 学校教育自己診断結果 ③ 進路途中経過報告            ④ 生活指導部より ⑤ 特別講演会 ⑥ 初任者から</p> <p>[ 質疑応答・協議 ]            ・河南の先生は良く家庭に連絡している。メール配信も続けて欲しい。            ・遅刻が減っている、皆勤賞制度の導入は功を奏している。継続の価値あり。            ・「教えることは学ぶこと」次の初任者が入ってくると、言ってもら側から言う側になる。今後、経験者としての自覚を持って欲しい。            ・自分の全人格を子どもたちにぶつけてもらいたい。テクニクに走るものないような先生であって欲しい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 幹の太い生徒の育成、 充実した質の高い授業	(1) 幹の太い生徒の育成  (2) 充実した質の高い授業  (3) 国公立・私立の合格者増	<p>ア 生活規律の確立： あいさつの励行、遅刻・欠席の減少、毛染め・ピアスの一掃に努める。年間遅刻件数を 2,500 件以内、自治会生徒役員によるあいさつ運動を 3 回以上実施する。</p> <p>イ 人権教育の推進： いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安全で安心な学校づくりに努める。学校教育自己診断(生徒)の人権肯定回答率を 10% 向上させる。</p> <p>ア 授業規律の確立： ベル着・机上整理・授業集中を徹底させるため、教員や管理職が校内巡回を積極的に行い、また、生徒集会などで注意喚起し、意識の向上を図る。</p> <p>イ 進路別少人数授業の拡充： 数学Ⅱ(2 年次、4 単位) で新たに実施し、苦手意識のある生徒の数を減らし、生徒の授業満足度を高める。</p> <p>ウ 授業公開・研究協議： 6 月に 2 週間行っている教員授業見学会を保護者・地域に公開する。また、アンケートも実施する。</p> <p>ア 国公立大学、関西大学の合格者の増加</p>	<p>ア 遅刻件数 2,500 件以下、あいさつ運動 3 回以上。</p> <p>イ 学校教育自己診断の人権肯定回答率 10% 向上。</p> <p>ア 授業遅刻・授業中の居眠り・机上のペットボトルなどの縮減に向け、校内巡回(毎日 2 回)・授業観察などを通して改善努力。</p> <p>イ 進路別少人数授業の実施、生徒の苦手意識の解消・授業満足度の向上。(学校教育自己診断の授業項目 5%アップ)</p> <p>ウ 教員全員の授業公開、アンケートの職員会議でのフィードバックと必要に応じて校長の個別指導。</p> <p>ア 国公立大学 15 人、関西大学 80 人</p>	<p>ア 遅刻 2795 件。昨年度は 3194 件で、13%減。あいさつ運動 1 1 回。(○)</p> <p>イ 大きく向上。肯定回答率は以下。(◎) 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」 今年度 80% (昨年度 61%) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 同 73% (同 62%) 「河南高校で人にかからかわれて嫌な思いをしたことはない」同 77% (同 71%) 「学校は子供に生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」 同 72% (同 58%)</p> <p>ア 大きく改善。(◎)</p> <p>イ 向上。肯定回答は以下。(○) 「先生の教え方には、様々な工夫がなされている」 今年度 67% (昨年度 60%) 「授業の進度が適切である」 同 65% (同 60%) 「全体的に授業がわかりやすい」 同 58% (同 57%)</p> <p>ウ 6 月の PTA 総会や 9・10 月の学校見学会、11 月 2 週間の授業公開。保護者 18 人、中学生とその保護者多数参加。11 月は 27 授業に 41 人の教員が参加。教科内で研究協議を行うとともに感想記入票を授業者へフィードバックし、授業力向上に努めた。(○)</p> <p>*昨年 12 月末に PTA と同窓会の支援により、電子黒板機能付きプロジェクターを 10 教室に設置し、充実した質の高い授業を旨とした。</p> <p>ア 現在の把握数、国公立 11 人(市大・府大・広大・大教大等)、関西大 69・同志社大 22・早稲田大 4・近畿大 143 等(昨年度国公立 10、関西大 58・同志社大 14・早稲田大 0・近畿大 101) (○)</p> <p>・平日の 0 時間目や放課後はもとより、3 年生の夏期進学講習を 15 科目 170 コマ、冬期進学講習を 16 科目 119 コマ実施した。</p> <p>・勉強合宿を全学年で実施、学習習慣の確立と受験に向けての動機づけを行った。</p>

<p>2 特色づくりの推進、普通科改革校としての地歩固め</p>	<p>(1) 特色づくりの推進と改革校としての地歩固め</p>	<p>ア eコース： 体験学習・高大連携・発展教科の充実を図り、eコース連絡会で定期的に検証する。現3年生（eコース1期生）が卒業時には、国公立大学や教育系大学への進学者70%以上となるよう努める。</p> <p>イ 特別講演会： 世界で活躍する人を年に1回招き、生徒への動機付けを行う。（オリンピックのメダリスト、同時通訳者、各国の領事など）</p> <p>ウ 国際理解教育・英検資格取得： 国際交流委員会が中心となり、交換留学（受入・派遣各1名以上）や海外視察団の受け入れ（6月）などを積極的に行う。また、学年で実用英語検定の全員受験を推奨する。</p> <p>エ 家庭学習時間の増加： 週2回の勉強会等を通して学習時間の増加を図る。</p> <p>オ 防災： 避難訓練マニュアル・大地震発生時アクションカードなどを充実させる。また、ロッカー固定や防災グッズの購入、備蓄米の確保に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。</p> <p>カ 環境教育・国際貢献： エコキャップ運動をさらに拡充し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>ア 国公立大学・教育系大学への進学者70%以上。</p> <p>イ 特別講演会の実施、生徒への動機付け。（アンケートで把握）</p> <p>ウ 英検2級合格者20人以上、海外からの訪問団の受け入れ、交換留学（受入・派遣各1名以上）が出来たか。</p> <p>エ 週2回の勉強会実施、学習時間10%向上。</p> <p>オ 各所にアクションカードを掲示、ロッカー固定・必要な物品の確保。</p> <p>カ ユニセフと連携した多くのポリオワクチンの供給。（20人分以上）</p>	<p>ア 82% (◎)</p> <p>イ 北京五輪シンクロ日本代表石黒由美子さんを招いて、「夢をあきらめない」というテーマで講演会を実施した。生徒と保護者に感動が広がった。(○)</p> <p>ウ 英検は結果待ち。アメリカ合衆国オレゴン州の高校生13名を1週間受け入れ、国際交流と相互理解を図った。(6月上旬) 狭山ロータリークラブと連携して1年交換留学（受け入れ・派遣各1名）、英国3週間留学（同各1名）を実施した。 生徒のニーズの高まりを受け、来年度はロータリーの協力を得て、1年派遣2名、英国3週間派遣を4名に拡充することとした。(◎)</p> <p>エ Buzz 学習を週2回行い、生徒の知識と教養の充実を図った。(○)</p> <p>オ 徹底した。肯定回答は以下。(◎) 「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」 今年度83%（昨年度72%）</p> <p>カ 生徒保健委員が中心となり生徒・保護者・近隣住民から25,000個回収し、ポリオワクチン31人分の供給を行った。生徒はCO2削減など環境問題への理解を深めるとともに、ポリオワクチンの供給をとおして国際貢献に取り組んだ。(◎) ・地域の小・中学生や高齢者対象に生徒が推進する河南講座を実施し、地域貢献に努めた。</p>
<p>3 生徒・保護者の思いを的確把握、キャリア教育体制の確立</p>	<p>(1) 生徒・保護者の思いを的確把握</p> <p>(2) キャリア教育体制の確立</p>	<p>ア 面談の充実・生徒支援： 面談などを積極的に行うとともに、中学校訪問などを通して、生徒情報の共有と生徒支援に努める。学校教育自己診断の「保護者から相談があれば学校はすぐに応えている」などの保護者の肯定回答を10%向上させる。</p> <p>ア キャリア教育体制の確立： 進路・学年・キャリアカウンセラーなどが連携して本校独自の「キャリア教育ワーク集」を作成し、高校3年間を見通した系統的なキャリア教育体制を確立する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の保護者肯定回答10%の向上。</p> <p>ア 本校独自の「キャリア教育ワーク集」の完成。</p>	<p>ア 2ヶ月に1回の割合でPTA役員会・委員総会を実施し、各回50人の参加があった。また、全校的に面談の回数を7・12月に行うこととし、丁寧な保護者対応に努めた。肯定回答率は以下。(○) 「保護者から相談があれば学校はすぐに応えている」 今年度57%（昨年度49%） 「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」 同 89%（同 81%）</p> <p>ア 完成。(○)</p>